

令和元年度 年度末学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校



12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。
(アンケート回収率：生徒90.5%、保護者61.2%、教員100%)

※
A:「はい」
B:どちらかといえば「はい」
C:どちらかといえば「いいえ」
D:「いいえ」



1 アンケート項目および評価方法

- 以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。
- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
 - II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
 - III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
 - IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

2 アンケート結果

※肯定的回答の割合→評価Aと評価Bを足した割合

(1) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

順位	項目	肯定的回答の割合	順位		
			生	保	教
生徒	1 あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	99.0	1	1	5
	2 あなたや保護者が提出した書類(申請)について、学校はきちんと処理していると思いませんか。	98.1	2	4	1
	3 学校ではあなたの適性や進路希望に合った進路指導をしてくれていますか。	93.3	3	11	7
保護者	1 あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	97.2	1	1	5
	1 あなたのお子さんの言葉遣いや礼儀はきちんとしていますか。	97.2	6	1	17
	3 学校の清掃が行き届いていると思いませんか。	95.8	5	3	17
教員	1 生徒・保護者から提出された書類(申請)や徴収金の受付処理及び管理を適正に行っていますか。	100.0	2	4	1
	1 わかる授業をするための工夫をしていますか。	100.0	4	5	1
	1 生徒は楽しく学校生活を送っていると思いませんか。	100.0	8	9	1
	1 日頃より保護者に対する情報発信及び情報交換を大切にしていますか。	100.0	14	13	1

※肯定的回答の割合→評価Aと評価Bを足した割合

(2) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

順位	項目	肯定的回答の割合	順位		
			生	保	教
生徒	22 あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	57.1	22	22	22
	21 あなたは進路実現に向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	61.9	21	14	20
	20 あなたは進路に関する自分の適性をよく知っていますか。	66.7	20	15	13
保護者	22 あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	53.5	22	22	22
	21 学校からの進路に関する情報提供は適切だと思いませんか。	73.2	15	21	7
	19 学校における生徒指導の方針や方法を理解していますか。	74.6	17	19	17
	19 進路等に関してあなたのお子さんとの話し合いは十分ですか。	74.6	15	19	15
教員	22 生徒は計画的な家庭学習を行っていると思いませんか。	11.8	22	22	22
	21 生徒の進路目標は明確になっていると思いませんか。	58.8	19	17	21
	20 生徒は、進路実現に向けて課外や個別指導に積極的ですか。	64.7	21	14	20

3 アンケート結果の分析

I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

年3回の授業力向上週間を年間計画に位置づけ、教員間の互見授業を通じた授業改善に力を入れた。年間を通してタブレットやclassiを活用した授業展開や家庭学習課題も取り入れ、生徒理解に貢献し、主体性を引き出す方法の研究ができたことも、生徒、保護者からの高い評価につながったものと思われる。しかし、家庭学習の習慣化は本年度も三者共通の大きな課題となった。家庭での時間の使い方の改善やスマートフォンを使用する時間を制限することで生活リズムを整え、各教科の予習・復習を軸に家庭学習を進められるような体制を整える必要がある。何より、生徒自身の自発的な学びにつながる方策を、学校、家庭それぞれの立場、関わりの中で伝えていくことが大切であり、課題(宿題)の量、質に対しても検討していく必要がある。高校教育の質を保証しながら、学力層に応じた知的好奇心を引き出す内容を工夫していきたい。

II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

適性や進路希望に合った進路指導に対する評価が大きく向上した点は、進路指導部の各種取組や総合的な学習・探究の時間、LHR、クラス掲示等での活動が機能しているものと思われる。今後も生徒、保護者双方に進路情報を確実かつ適切に発信できる体制づくりを継続させ、生徒自身が自分の適性や進路選択の幅に気づく場面を多く設定し、生徒と保護者、学校と保護者のコミュニケーションを図りながら、生徒の進路目標実現に向けた取り組みを充実させていく。また、現在本校では、進路の第一希望を決めただけで満足してしまう生徒が多く、目標を達成するための具体的な行動やその次のレベルに挑戦する姿勢が低いことが課題となっている。生徒同士が互いに切磋琢磨してより高みを目指す学び合いの集団となるよう、ガイダンスと個別指導が持つ機能を最大限に生かした進路指導を行っていきたい。

III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

毎日の昼休みの巡回指導、校内いじめ防止対策委員会もしっかり機能しており、生徒が安心して学べる教育環境の整備を今後も進めていきたい。その反面、教員の評価で、生徒の服装頭髪の乱れや言葉遣い、礼儀作法の改善を指摘する声が少ない。改善のためには周囲の大人が同じ基準を持ち、気づいた時に声に出して諭すことで、生徒自身にその時の言動の振り返りをさせる必要があると考える。生徒の変化に関心にならないよう、学校はもちろん、家庭と地域全体で継続的に生徒の心身のサポートをしていく必要がある。学校だけでなく外部でも只見高校生としての自覚を持ち、正しい言動を心掛けるよう指導している。また、部活動を年度途中で転部する、あるいは活動に参加しなくなるケースが少なからず見られた。共通の目標達成のために苦楽を共にした体験を通し、互いの価値観を認め合うことで自分自身や集団の成長につなげられるような活動を心がけていきたい。

IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

保護者に関しては、どの質問項目においても80%以上が概ね満足しているという評価だった。一部の生徒に関しては学校生活に何らかの不安要素を感じていることが分かったので、その対応が急務である。特に、山村教育留学生は環境の変化や集団生活の中でさまざまな課題に直面する場面も多く、心身のバランスを崩しやすい傾向があるようなので、そういった状況に配慮しながら指導にあたり、他者と折り合いをつけながら自力解決できるたくましさや、地域や周囲の人から与えられた環境を当たり前と思わずに、感謝の気持ちをもって生活することの大切さも同時に伝えていく必要があると考える。